

令和5年度 浜竹保育園事業報告

1. 概要

①運営方針

●大田区の令和5年度の認可保育施設における欠員は増加傾向にあるようです。幼児はもちろん0歳児についても同様です。地域的には求職中でも入所できる状況があるようです。

幸い当園においては12月頃より転居に伴う出入りがありましたが、在籍率は97%でした。

●交流活動については、区の方針に沿って行いました。小学校との交流は解除され実施しました。近隣の老人施設や他施設については進んでいません。次年度は老人施設との交流や子育て支援活動も含め交流を広げていく必要があると考えています。

●こどもの人権や「不適切な対応」等について広く社会の中で取り上げられていることもあり、当園の保護者も保育士対応や園児同士の関係などにも敏感になっていると感じています。

コロナ禍以前に取り組んでいた「こども人権ワークショップ」を「こども・保護者・職員」対象に実施しました。また地球資源を大切に作る「SDGs」についても幼児クラスを中心に計画・実践しました。

●これまで災害時緊急メール配信として「トヨクモ安否確認」を利用してきました。令和5年度は保護者会で説明後7月より「コドモン運営管理」の利用として登降園QR読み取りや職員出勤時刻を導入しました。また、毎月のお便りもメール配信を導入しましたが、閲覧状況の確実な把握は出来ませんが、閲覧していない人が2～3割いるようです。今後アンケート調査で実態を把握していきます。

パソコン・タブレットを増やすことにより各クラスの事務がスムーズになってきました。

●令和5年度は4名が産休・育児休業に入り3人が復帰してきました。子育て中の保育士が多くなり前期はシフト体制が厳しく大変でしたが、リーダー間で連携を図りながら協力し乗り切ることが出来ました。また、仕事と私生活のワークバランスの向上を目指し、公休を105日～110日に増やしました。公休と有給を計画的に組み入れることで活動の計画も立てやすく職員の協力体制を事前に進めておくことで調整できました。

●地球規模で地震や水害等の災害が多くなっています。災害に対する避難や対策が急務となっています。BCP及び安全計の作成や見直しをしてきましたが、もう少し実際の被害や対策の情報収集を行いより具体的にしていける必要があると反省しています。

②定員 140名（大田区との協定によります。）
（前期・後期に分け各1名ずつ予約入所しました）

③事業日数 310日（令和6年1月・2月・3月）は、すべての休日は保育実施

④開園時間 月曜日～土曜日 7時15分から20時15分

休日保育実績 (令和5年度は、令和6年1月・2月・3月の実施)
8時30分から17時30分
16日 延べ40人

⑤保育時間 (月曜日～土曜日)

早朝保育 7時15分から 8時30分
通常保育 8時30分から18時15分
延長保育 18時15分から20時15分
・遅刻するケースも多くありました。

⑥職員数 園長1名、主任1名、副主任1名(要支援児個別対応 兼務)
保育士 22名 延長保育専任(正規)1名
看護師1名、栄養士・調理員 5名
非常勤保育士2名:延長専任1名 派遣保育士1名
パート(早朝または夕方保育補助員)2名、
嘱託医(大田区の指定による) 内科医1名、歯科医1名

2. 保育運営

①保育理念

- こどもはこども同士認め合い、助け合い、学び合うこども社会の中で、成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは、こどもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②保育方針

- 十分に養護の行き届いた環境の下、こども達が主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え自己を十分発揮し人として『生きる力』をはぐくむ。
- 愛着関係を確立させ、こどもとの継続的な信頼関係を築く。
- 保育所職員の専門性を活用し、在園児及び地域の子育て支援を行う。

③保育目標

「共に遊び 共に育ち合い 学びに向かう子」

1. 友達と一緒に遊び、楽しみながら様々な体験を重ねる中で、考えたり工夫したり、協力したりしながら主体的に行動する力を身につけるこども
2. 互いの思いや考えを共有したり、自分と異なる考えに気付いたりしながら学びに向き合い、互いに育ち合える子

④クラス編成及び職員配置

| | | | |
|--------|-------|----------------------|------------------|
| 0歳児 | かめ組 | 17名 | 保育士7名 |
| 1歳児 | かに組 | 21名 | 保育士4名（他、派遣保育士1名） |
| 2歳児 | ぺんぎん組 | 24名 | 保育士4名（他、派遣保育士1名） |
| 3歳児 | いるか組 | 26名 | 保育士3名（要支援児対応1名含） |
| 4歳児 | とびうお組 | 26名 | 保育士2名（非常勤保育士1名） |
| 5歳児 | くじら組 | 26名 | 保育士2名 |
| | | （園児定員 140名） | （保育士 22名） |
| 主任保育士 | | 1名 | |
| 副主任保育士 | | 1名（乳児フリー兼務） | |
| 非常勤保育士 | | 3名（非常勤保育士・派遣保育士 有資格） | |
| 早朝保育補助 | | 2名（パートタイマー） | |
| 延長保育補助 | | 1名（パートタイマー） | |

⑤保育内容

- コロナ禍の間、異年齢交流を経験していない職員も多いため、クラス全体が落ち着いた時期より徐々に交流を広げていった。幼児クラスは保育士も隣のクラスに入り園児の情報把握をすることから始めました。年度末には、幼児3クラスで公園に行きオリエンテーリングを楽しみました。
- こども自身が健康に関心を持てるよう小道具やカード・ゲームを看護師が手作りで工夫し健康教育を実施しました。特に玄関ホールに設置した親子で会話を広げられるような仕掛け（歯磨きシートの制作）は乳児も親子一緒に遊び感覚で楽しんでいました。
- 春には土起こしから蓮華や白粉花の種をまき、自由に花摘みが出来るようにしました。花を使って色水づくりやままごとを楽しみました。夏の暑さで園庭遊びが少なくなると手入れが不十分なまま年度末を迎え反省です。
- 体幹の弱い児、体の硬い児が多く柔軟運動を丁寧に行ってきましたが、転ぶ・ぶつかる・手が出ないなどやはり改善されるまでには時間がかかりそうです。また、意欲に欠ける姿も多くみられ、より興味を持って取り組めるように工夫していく必要を感じています。
- 昨年度より「SDGs」について各年齢に合わせ計画に組み入れました。4・5歳児クラスは、身近な事柄からこども達が考える取り組みをしてきました。泥水実験や物を大切に使う事例など保護者にも図や表で分かるように示す等、楽しんで取り組みました。人権問題などについてNPO法人に依頼し4・5歳児は、「こどもの人権を考えるワークショップ！」を行いました。

⑥家庭との連携

- 登降園の出欠席管理ついて春の保護者会で説明した後、登録、打刻（QRコードの読み取り）を開始しました。また、併せて不審者侵入をチェックするために、登降園の際、園名を記載した名札を首からぶら下げて頂いています。打刻は特に問題なく進みましたが、全く打刻しないご家庭が2世帯います。カードを忘れたり紛失する方もいました。

日々事務所と各パートで出欠連絡連携を密に行い漏れのないように連携を取りあっています。連絡のない保護者には必ず連絡を入れ状況把握をしています。

- お便り「園だより・年間行事計画、区からの献立表、保健だより」は7月よりコードモンシステムによるメール配信に切り替えました。献立表はペーパーで欲しいという要望も多く必要に応じてお配りしています。メールを確認していない人もいます。いかに閲覧率を上げていくか課題です。
- 保護者からの要望が多かった子育てについて共感共有する場を設定しました。20分程度ですが、4から5人ずつにグループ化し実施しました。積極的な情報交換が出来保護者には好評でした。父親の参加も多くなり積極的に参加していました。
- 発表会参加者を5年度は各家庭2名としたところ、多くのご家庭が2名参加しました。

⑦人材育成

- 大田区保育サービス課主催の研修にはすべて参加しました。外部研修「キャリアアップ研修」への関心も徐々に高まりオンライン受講する人が2人いましたが、その影響を受け年度末には5人となり職員間での関心が広がっています。受講した職員の保育士姿勢やこども対応に変化が見られています。
- 令和5年度は途中で栄養士が産休に入り、メンバーが入れ替わるなど体制が厳しい中でしたが調理業務はもちろんですが、おやつ屋さんや食材展示など工夫しながら食育活動に積極的に取り組みました。
- 支援の必要な家庭や保護者などの対応について、引き続き園内勉強会において事例検討や外部講師の助言を受けながら学び、御家庭の事情に沿った支援に役立てました。
- ニュース等で良く取り上げられた「保育所における不適切な対応」について、職員会やニュースのタイミングに合わせ周知し考える機会とした。また、「こどもの人権を守る」をテーマにNPO法人によるワークショップを実施しました。4・5歳児のこども対象にワークショップ、保護者・職員対象に講習会を開催しました。保護者参加は4名でした。今後は参加人数を増やすためには、時期や時間を検討する必要があります。
- 「SDGs」について全職員で勉強しながら各年齢に合わせ具体的な計画と活動を行いました。
- 試行として、業務態度や意欲また協調性やリーダーシップ等について、まずそれぞれ個人で自己評価をして頂き、客観的な評価について知る機会としました。課題が多い場合は処遇改善等に反映させます。年度末に業務分担や役割についてリーダーを中心に見直しました。

⑧地域の実態に対応した事業

地域子育て支援事業

- 地域支援の子育て支援活動「はまっこクラブ」の計画を毎月立てましたが、インフルエンザや溶連菌感染症等や気温の高費も多く中止になること月もありました。施設見学は人数少なく設定し開催しました。
 - ・「はまっこクラブ」 7回開催 27名参加: 中止2回
 - ・育児応援券利用 11名

- ・施設見学 23回開催 103名参加
 - ・緊急一時保育 4名 延べ63日
- 保育理由 : 母入院・出産・通院・産後鬱

●令和5年度は「こども地域会議」において具体的連携の在り方を検討しました。小学校のPTAの方や町内会役員や関係施設の方々が参加し、訓練や避難訓練に参加しつながりを深めていきます。その後、糶谷小学校にて西糶谷地域の災害対策や防犯対策について情報交換を行い、対策についても意見交換しました。

近隣園の「起震車体験」にも参加させて頂きました。

●近隣の老人施設に夏祭りの際、こども達が手作り神輿を担ぎ、施設の外広場に出て来て頂き声援を頂きました。久しぶりのこども達の元気な姿を目にして嬉しそうな表情を見せて頂きました。

幼保小中との連携事業

●近隣小学校（萩中小学校）の一年生と5年生と交流しました。年明けに小学校に行き一年生と一緒にいろいろな教科の学習体験をしました。楽しそうに参加していました。5年生は来園し絵本を読み聞かせしてくれました。大きいお兄さんやお姉さんに緊張していましたが、良い経験となったようでした。残念ながら中学生の体験学習はありませんでした。

⑨苦情処理

- 入園説明会において苦情解決「第三者委員」制度について丁寧に説明周知しました。
- 保護者からいただいた意見や要望は、職員に周知すると共に解決に向けリーダー会または、全職員で速やかに検討・改善し、必要に応じて全保護者に向けての回答掲示や文書にて報告しました。
- 個別対応として運動遊び中に前歯を怪我した事例（この3月で卒園）に対しては、怪我の際に関係した園児の保護者に対してのトラブルとなり、理事長に相談するとともに大田区保育サービス課にも報告・支持を仰ぎました。白鳩会顧問弁護士のお力添えを頂き問題収束まで一任している状況です。

⑩リスクマネジメント

- 応急保育施設受け入れについて訓練経験者を中心に設定しイメージの共有を図りました。また災害時事業継続（PCB）や安全保育計画についてもリーダーを柱にマニュアル点検と見直しをしました。
- 救急救命や応急手当について大田区や消防署主催の救急救命講習会に参加した職員もいますが、園内で看護師による講習（技術）を全職員が受けました。その後、チェックシートにより個々の取得状況を確認しました。
- 園児の出欠や人数確認を確実にするため、朝夕の打刻による点検及びクラスからの出席状況報告を受けたうえで、連絡のない家庭には電話にて確認し記録を残すようにしました。

また、散歩先での人数確認は目的地に着いた時、他ポイントごとに園に報告し記録に残すようにしました。

- コロナウイルス感染症対応については、行政の方針を職員間で共通理解し保育を進めました。園児へは健康教育として年齢に合わせた内容を保育士と看護師で計画実施しました。
- 給食提供の仕方について全員に周知したうえで、日々の確認の徹底と安全・安心な給食提供に努めました。
- 環境の安全点検は各年齢で小まめに行い、問題の箇所や危険につながる場合は迅速に報告、周知改善に努めました。(気づきをメモに残せるようにしました。)

⑪ 修繕及び備品購入

- ・ 反りが目立った1階廊下は5月連休にシートを張りました。また、1階トイレの壁紙は業者に張り替えて頂きました。
- ・ 玄関側フェンスに取り付けている「浜竹保育園」の看板を取り替えました。
- ・ パソコン（デスクトップ・ノート）各1台ずつ取り替えました。
- ・ 2階の廊下やホールの床板も反りが見られるようになりました。次年度張り替える予定です。
- ・ 3月末に印刷機を取り替えました（リース）